



第440号 2023年12月 名古屋教区ニュース

宣教地召命促進の日・献金 12月の第1日曜日

教区101年目 出て行こう! 神からの恵み AGIFTを告げるために

福音のひびき 12月の説教者 3日 待降節第一主日 太田実(一宮教会)

大人のための侍者講習会

よく準備された... みんなでささげる... ミサ 一致に向かう...



名古屋教区典礼委員会「大人のための侍者講習会」が10月9日、南山教会大聖堂で開かれた。

ミサをささげるとは して父なる神に聖霊の働 きによってキリストをさ

ミサは毎日ささげられ るが、同じことを「繰り返

「続けていく」のではなく 手を使って行うことだ

ミサに参列している私 たちだけではなく、ここ

私たちが歌っている わけではなく、天使や聖

一致に向かうミサ どこで行われるミサも

仕草や声の大きさ、速 度など、さまざまな人

ミサにはさまざまな奉 仕がある。祭服を着て行

にぎりを作って名古屋駅 に持って行き、野宿労働



名古屋教区の殉教者祭 が10月9日、名古屋市中

証しする勇気を

殉教者祭・栄国寺

た来歴を聞いた。 ミサの司式は殉教者頭

今年も栄国寺第20代当 主の若松一雅住職から、

(右近の父) 配下にあっ たコンスタンチノによる

した殉教者たちに不屈の 精神をお与えになった全

炊き出しには夢がある

ホームレス支えて40年

竹谷神父 インタビュー



福音館の厨房で炊き出しの下ごしらえをする竹谷神父

ホームレスや生活困窮 者に食事を提供する炊き

初めて参加した時、相 馬信夫司教(当時)もみ

それまでの竹谷神学生 は街でホームレスを見か

いけない。こうして竹谷 神学生は炊き出し活動に

活動が必要ない社会にな らなければ」と竹谷神父

「炊き出しが目的では ない。もちろん今食べ物

「炊き出し活動もそ う。炊き出し活動は夢の

50周年記念ミサとパーティー 多国籍信徒集う

新主任司祭迎えて

半田教会

半田教会は9月17日に創立50周年を迎え、松浦悟朗司教司式による記念

ミサと祝賀パーティーを開催した。写真。

ミサは、神言会日本管区長サンティアゴ・エドガルド・ジュニア神父、主任司祭ジェブラ・エ

ウゲニウス神父、港教会の山野聖嗣神父、神言学院の暮林響神父が共同司式をした。そして多くの信徒が参列した。

半田教会には日頃からブラジル、ベトナム、フィリピンの信徒が集まる。この日も多国籍の人々で祝賀会を催すことができた。

他の報告事項としては、平和年間、今年度予算の執行と来年度予算の請求、高齢者祝福カードの配布、名古屋・栄国寺と金沢(高山右近)の殉教者祭、来年の年間予定表、WYD、大阪高松大

司教区の設立、日本カトリック神学院、聖職者による性虐待問題などがあつた。

さらに新年の集いと司祭・修道者の金銀祝(ダイヤモンド祝を含む)について審議された。

審議はいずれもコロナ後の祝賀会のあり方を巡るものだった。結論として、来年の新年の集いは祝賀会が行わない。新成人の交流は青年委員会に一任する。2024年春の金銀祝は、春分の日ではなく聖香油ミサの中で行う。ミサ後に小規模の茶話会を準備する。

名古屋教区の宣教師牧活動(行事など)はすべてこの宣教師評で司教ととも検討し、結論される。宣教師評は教会法第51条以下に根拠を置き、年に3回、2月6月10月の第1日曜日に開かれる。原則司祭1名と信徒男女各1名のブロック代表者、加えて司教任命者によって評議会は構成される。(早川努)



10月宣司評 WYD参加者報告 コロナ後の祝賀会は？

2023年度の第2回宣教師評議会議(宣司評)が10月1日に開かれ、6月以降の活動報告と、今

後の活動についての審議が行われた。教区設立10年からの課題の一つ「次世代につなぐ信仰」につ

いて、ワールドユースデー(WYD)リスボン大会の報告があり、ビデオ観賞、参加した青年5人の報告を聞いた後、さらに分ち合いを行っ

た。青年たち一人ひとりから詳細な報告があつた。

多くの貴重な体験をしてきた青年たちには、伝えたいことが山ほどあつた。

多額の費用を要する。春分の日ではなく聖香油ミサの中で行う。ミサ後に小規模の茶話会を準備する。

名古屋教区の宣教師牧活動(行事など)はすべてこの宣教師評で司教ととも検討し、結論される。宣教師評は教会法第51条以下に根拠を置き、年に3回、2月6月10月の第1日曜日に開かれる。原則司祭1名と信徒男女各1名のブロック代表者、加えて司教任命者によって評議会は構成される。(早川努)

「みとりし」 映画上映会

愛されて旅立てるように

カトリック看護協会と看取り士会

カトリック看護協会名古屋支部と看取り士会の共催による映画「みとりし」上映会が10月7日、聖霊病院・聖霊ホールで開かれ、およそ50人が参加した。



この映画は日本看取り士会会長・柴田久美子さんⅡ写真Ⅱの実体験をもとに作成され、2020年ロサンゼルス日本映画祭で三つの賞を受賞した。しかし、コロナの感染流行で映画館が閉鎖され、上映できなくなりました。

カトリック看護協会の顧問司祭・暮林響神父と、カトリック信者で看取り士として活躍してい

る方との出会いが上映会のきっかけとなった。この映画の主人公は交通事故で娘を亡くした58歳男性。彼は喪失感の中で日々を過ごしていたが、同僚の死をきっかけに「看取り士」の存在を知り、看取り士という仕事をセカンドライフに選

んでいくというストーリーだ。上映後、「看取り士会」を創設した柴田さんは「日本のQOD(死の質)は世界第14位。看取り士はこの死の質を高める活動を行っており、すべての人が最期を愛されていると感して旅立てる世界を作ることが夢です」とあいさつした。

マザーテレサを敬愛しているという柴田さんのこの言葉の実現を目指して看取り士は、在宅で逝く人の最期に寄り添い、家族と共に看取りをしている。

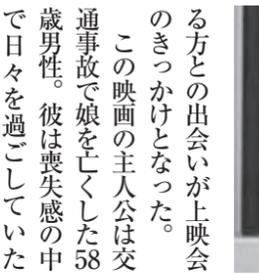
上映会の参加者からは「本当の意味での寄り添

活動グループの自己PR

活動グループで信仰表現 勇気・元気を分かち合い

信徒使徒職大会に140人

名古屋教区信徒使徒職大会が10月7日に行われ、140人の参加があつた。



名古屋教区信徒使徒職大会が10月7日に行われ、140人の参加があつた。

本大会のテーマである「つなげよう 喜びとともに」の趣旨に賛同する多くの活動団体とグループが参加した。ワールドユースデーに参加した青年たち、フィリピングループ、神戸・大阪より

参加したゴロー司教&兄弟バンド、それぞれが素晴らしい信仰の表現を通して大きな勇気と元気を分かち合った。

参加団体が多く、限られた時間の中で実施するために、発表には時間制限が設けられた。

主催の名古屋教区信徒使徒職協議会会長・平松富男さんからは多くの関係者への感謝と同時に迷惑と不便をかけたとしておわびの言葉が届いている。

56年から10年間は熱田区鍋釜町の修道院で活動しましたが、67年1月には、ついに布池に書院が完成しました。「布池の大都会に出てきた聖パウロ書院に、神父様がこの期待は大きかった」と記されています。

これに加え、62年12月〜81年2月、名鉄百貨店にセントポールコーナーが設けられ、18年にわたって、教会案内の役割を担わせていただきました。

その後、家庭訪問宣教は徐々に人々から受け入れられなくなり、車を使つての団体訪問宣教に力を入れるようになりました。名古屋教区ばかりでなく、三重県、長野県、静岡県などにも出かけ、教会や学校・幼稚園を訪問しました。小教区では、神父様がたや信徒の皆様は温かく迎えていただき、信仰生活に助けとなる書籍の普及を果たすことができました。また、キリスト教教育が基盤にあるカトリック系の学校・幼稚園では、シスターがたや先生がたのご協力により、聖書物語をはじめ多くの書籍をおして宣教することができました。布池の聖パウロ書院や修道院でも、イベントを催すなど多くの人々が福音に出合えるように工夫を重ねられました。こうして教区の皆様と力を合わせ、福音宣教にまい進することができました。

近年は姉妹たちの高齢化に伴い運動して本を運ぶ訪問宣教も難しくなり、活動は縮小されていきましたが、それでも信徒協力者の方々の寛大なお力添えをいただきながら、日曜日に教会に出かけたり学校・幼稚園を訪問したりし、また宣教の拠点である書院での宣教を続けてまいりました。

名古屋教区からはたくさんのお命もいただきました。姉妹たちは皆、豊かな交わりと宣教の日々を心に抱き、お祈りをささげています。

皆様、たいへんお世話になり、ありがとうございます。今後とも一緒に宣教を果たしてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



奇跡の主の行列 司教座聖堂で初!

小牧のペルー人グループによる

セニョール・デ・ロス・ミラグロス(奇跡の主)の聖行列とミサが10月1日、初めて布池教会で開催された。

ペルーの首都リマでは10月の第1土曜日と18、19日、28日、11月1日に、奇跡の主の神輿(みこし)が市内を巡行する。聖行列(プロセスオン)に際し、信徒・修道士たちは主キリストの受難にちなみ紫色の衣を身につけ、さらに白い帯を、女性は

腰に巻き、男性は首から掛けて参加する。今日ではリマのみならずペルー全体の国民的行事となっており、ペルーに隣接する南米各国の他、北米やヨーロッパその他の国々でもそこに住むペルー人たちによって行われている。

その一つがカトリック小牧教会だ。今年の9月には聖行列を企画・実行するミラグロスグループが結成されて13年を迎えた。グループでは経済困難者などの支援活動も行っている。その活動はホームページに載せたり、松浦悟郎司教や協力者の司祭たちにも報告されている。

2020年からコロナ禍となってしまったが、ネガティブ思考にはならず、逆に、いつも通りの支援活動を通して信者にポジティブ思考を伝えていこうと、めぐる活動が続けてきた。感

染拡大を防ぐために聖行列は行わず、ミサのみでの祝い3年続いた。祭りの裏づけに 困窮者支援活動

ミサが行われていて、日本では行われていないのかということだ。この疑問をグループで分かち合い、何とかして実現できないものかと、まずはいつもスペイン語のミサをお願いしているマルセリーノ神父に相談した。すると「ぜひ実現してほしい」という返事があった。続いて松浦司教にも事情を説明したところ、やはり快く受け入れられた。

えいごで聖句ドリル

"This very day in David's town your (ア) was born — (イ) the (ウ)!" 『今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。』(ルカによる福音書2章11節、主の降誕・夜半のミサの福音より)

Q. ア、イ、ウに入る語を次の中から選びなさい。
① Jesus ② Christ ③ Messiah ④ Savior ⑤ Lord ⑥ King
(英語は Good News Bible、日本語は新共同訳聖書によっています)

〈解答は次ページ〉

ビバ! アパレシィダ! ブラジルの聖母祭り

多治見



シィダの聖母の花みこしを作ったり、手作りの温かいおにぎりやスープレ、手作りキャンドルの販売などで協力した。ブラジル人たちと一緒にアパレシィダの聖母をたたえ、一つになれたことは、うれしい恵みとなった。

新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっていた「アパレシィダの聖母の祭り」が10月8日、3年ぶりに多治見修道院で行われた。午後からは雨が降り、肌寒い日となったが、多くの人が集い、最後まで熱く聖母をたたえた。

祭りのクライマックス、雨の中を登場したアパレシィダの聖母像に会場総立ちとなり、司祭が素敵な賛美歌を歌い、「ビバ、アパレシィダ!」の声があふき、熱く響き渡った。日本人協力隊はアパレ

600人が1泊2日で 誰ひとり取り残さない

力障連長崎全国大会

第14回日本カトリック障害者連絡協議会(カ障連)長崎全国大会が10月14、15両日、長崎純心大学を会場として開催された。誰ひとり取り残さない社会「ともに」のうで(長崎弁で「一緒に」)のテーマの下、札幌から鹿児島ま

で全国から会員が集まった。大会スタッフと信徒のボランティア、長崎純心大学生と中高生のボランティアを含めると約6百人が2日間をともに過ごした。

名古屋教区からは信徒約30人と、カ障連名古屋担当・志村武神父(日比

野教会、カリタス福祉委員会担当・山野聖嗣神父(港協会)、そして自身が聴覚障害者である狩浦正義神父(美濃加茂教会)の3人の司祭が参加した。

1日目は午前総会を開いて活動報告や予算の承認などを行い、午後には元熊本学園大学教授で弁護士の大塚裕さんを講師に「インクルーシブ防災」と題して基調講演が行われた。2日目は全体会として紙崎新一神父(長崎教

区)をファシリテーターとして前日の基調講演や分科会での気付きを分かち合った。感謝のミサII写真上IIではカ障連顧問司教・前田万葉枢機卿や中村倫明長崎大司教をはじめ20人の司教・司祭が祭壇を囲んだ。閉会式では次回2026年の開催地が名古屋と発表された。また、この大会を機に長崎カ障連が結成されること期待されている。基調講演と感謝のミサはYouTubeで視聴することができる。

開催までの経緯

国連が国際障害者年を宣言した1981年、聖ヨハネ・パウロ2世が教皇として初めて日本を訪問した。これきっかけとなり、個別に活動していたカトリック教会内の障害者グループが連帯し

てカ障連は結成された。翌年10月、京都教区河原町教会において設立総会が開かれ、その後3年ごとに全国の教区を巡り、総会と全国大会を実施してきた。

障害への理解と継続した支援、自立と社会参加の実現を目指してきたカ

障連は、2018年第13回横浜大会で次期開催地として長崎教区にバトンを渡した。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大によって開催延期を余儀なくされ、今年じつに5年ぶりに教区をあげ

ての開催となった。予知できない自然災害にあつては、障害者に限らず他者の手を借りなければ避難できない老人や子どもたちの実態を把握する事、それに対応した国レベルでの支援対策、そして真の意味での合理的配慮が行き届いていない現実を語った。

質疑応答では、熊本地震被災者の一人としての

講師の東さんは大規模災害が発生した時の障害者死亡率が高いことに注目し、災害の予防、応急対策、復興支援の基本的機能が当事者に適切に支援されているかどうかと疑問を投げかけた。

自身も車イスを使う障害者であることから当事者視点で現場に向き、災害時の脆弱な部分に目を向け、集めた情報から障害者に限らず弱い人たちが一日も早く安心して日常生活に戻れるようにと支援策を提案している。

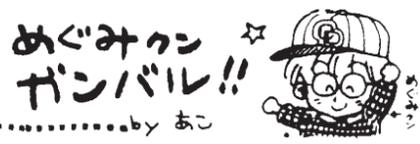
公的支援の網の目からこぼれ落ちる障害者が常にいる現実を知ること、一人一人の必要に合った支援を続けることが必要であると説く。

東日本大震災を機に災害対策基本法が改正されてはいるものの、高齢者や障害者という弱い立場の当事者たちへの支援は十分ではない。被災後にも重篤な状況に陥っていること、死亡率は一般の人と比べると2倍であることなどをデータから紹介。

立場から、災害時には支援を待つのではなく、自ら声を出して「たすけてください」と言えることが何よりも必要と最もシンプル方法を奨励し、障害者たちを励ました。

また、障害者への支援は行政や専門機関がするべきこと、自分には関係ないと思っている多くの

「声をあげる人たちが支え合って誰もが安心して暮らせる社会になっていく。私たちは諦めずそれを目指すことです」(名古屋教区 カリタス福祉委員会)



めぐみカンガンバル!! by あこ
「幼子殉教者の日」を思い出した
イエスの誕生を邪魔する為にヘロデ王が幼子達を皆殺し犠牲になった小さな命を忘れないようにと

赦しを癒しを慰めを安らぎを希望を平和を
これほど渴望する待降節も珍しい

こんな時だからこそ
なおい強く
世の罪を取り除く
神が自ら人と
なって救いにくる
人間の尊さを信じて

そしてその星は
一人ひとりの
頭上に輝く
命の光に照らされて
神の愛に包まれます
ように...

2023年度正義と平和学習会

年間テーマ 「やられた方から歴史を見るパート2 誰一人置き去りにしない」
テーマ 「フクシマからの避難者」
講師 岡本早苗
日時 2024年1月12日(金) 10時30分~12時
会場 福信館
問合せ 名古屋教区正義と平和委員会

えいごで聖句ドリル解答

ア=④ Savior イ=② Christ
ウ=⑤ Lord
降誕の夜、野宿をする羊飼いたちに救い主の誕生を告げる天使の言葉です。
「savior = 救い主」「Christ = キリスト」「Lord = 主」などの言葉は、一般の英語学習者にとっては難しい語句ですが、キリスト者にとっては必須です。
今回から英文を Good News Bible Today's English Version (TEV) から引用しました。ミサの朗読に用いる翻訳聖書はできるだけ原典に忠実な訳文が望ましいとされており、米国でのミサには NAB が用いられています。英語としてはいささか難易度が高いということが出来ます。一方、TEV は今日一般に用いられている英語で分かりやすく意訳された聖書です。なおかつカトリック教会にも公認されています。英語学習者が聖書に親しむにはよりふさわしいと思われれます。

- 祭日(祝) 祝日(記) 記念日
12月の教会暦
3日(日) 待降節第1主日
7日(木) 宣教地召命促進の日(献金)
8日(金) 無原罪の聖マリア(祭)
10日(日) 待降節第2主日
13日(水) 聖ルチアおとめ殉教者(記)
14日(木) 聖ヨハネ(十字架の)司祭
17日(日) 待降節第3主日
24日(日) 待降節第4主日
25日(月) 主の降誕(祭)
26日(火) 聖ステファノ殉教者(祝)
27日(水) 聖ヨハネ使徒福音記者(祝)
28日(木) 幼子殉教者(祝)
31日(日) 聖家族(祝)

- 1月の主な教会暦(主日・祭日など)
1日(月) 祝 神の母聖マリア
7日(日) 主の公現
14日(日) 年間第2主日
18日(木) 25日(木) キリスト教一致祈禱週間
21日(日) 年間第3主日
28日(日) 年間第4主日
世界子ども助け合いの日(献金)
9日(土) 社会委員会(北陸地区)*
12日(火) 殉教者委定例会
14日(木) 典礼委コアミーティング
16日(土) カトリック看護協会例会
18日(月) 月集*/顧問会*
25日(木) 司祭評常任委員会*
14日(日) 信徒協役員会
16日(火) 新成人と共に祝う教区新年の集い*
18日(木) カトリック看護協会例会
25日(木) 月集*/顧問会*
司祭評常任委員会*

第17回 ホスピス聖霊講演会
テーマ「日本人と死生観への問い」
講師 島蘭進氏 NPO 東京自由大学学長
日時 2024年2月10日(土) 13時30分~15時(その後、30分の質疑応答)
会場 聖霊病院2階 聖霊ホール
対象 一般
定員 100名 定員になり次第締切
申込み ・はがき、封書、または Eメールで、氏名・住所・電話番号をご記入・ご送付ください。
・定員を超過した場合、折り返しご連絡いたします。
締切 2月2日(金)必着
申込み先および問合せ先 〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地 聖霊病院 カトリック社会事業室 ホスピス聖霊講演会係 ☎052-832-1181 (内線3316) Eメール katosha@seirei-hospital.org
※この講演会は、後日聖霊病院ホームページより配信を予定しています。
主催 聖霊病院 ホスピス聖霊推進委員会
後援 ホスピス聖霊後援会「ぶどうの会」
QRコードからも申込みができます。

建設費の返済に協力を
662件 35,341,634円
目標額 40,000,000円 (10月末現在)
達成率 約88.3%
郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

カルメル修道会日比野修道院
講座、黙想企画
【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】
一キリストの十字架の恵みをより味わうためにー
テーマ 10の災いとファラオのかたくなさ、シナイ契約と神の慈愛(ヘセド) (出エジプト記)
日時 12月16日(土) 14時30分~16時30分
場所 カルメル会日比野修道院 (日比野教会:名古屋市熱田区大宝 4-5-17)
持ち物 必ず聖書(旧約+新約)をご持参ください
参加費 無料。どなたでもご自由にご参加ください
担当 志村武神父(カルメル修道会)
問合せ 日比野修道院 (☎052-671-1003)
以降の予定 2024年1月20日(土)、2月17日(土)、3月16日(土)

聖霊中学・高等学校
「第42回 EVE, My 青春!」
本校オーケストラ部、聖歌隊によるクリスマスキャロルの演奏
日時 12月16日(土) 15時~16時(雨天中止・小雨決行)
場所 Hisaya o-dori Park メディアヒロバ
入場 無料・自由席(立見)
問合せ 聖霊中学校・高等学校 EVE, My 青春実行委員会 古田 〒489-0863 瀬戸市せいれい町2 ☎0561-21-3121 furucho@seto-seirei-js.ed.jp

光ヶ丘女子高等学校
クリスマスページェント 2023
光ヶ丘女子高等学校の伝統行事であるクリスマスページェントが今年も開催されます。天地創造からキリスト降誕までを、吹奏楽部の演奏に乗せて描くミュージカル劇。全国トップレベルで活躍する部活動で織りなすステージは必見です!
クリスマス喜びを、ともに祝いましょう。
日時 12月16日(土) 開場14時30分 開演15時
17日(日) 開場13時30分 開演14時
場所 岡崎市民会館あおいホール
全席指定 2,000円
チケットは「チケットぴあ」にて12月1日(金) 10時より販売開始。ライブ配信(17日のみ。イープラスにて1,500円)もあります。ぜひご自宅でもお楽しみください。
詳細は光ヶ丘女子高等学校ホームページをご覧ください。

ニュース

大阪高松教区の設立式ミサ 前田万葉初代大司教
大阪、高松の両教区を統合して大阪高松大司教区を設立すると、教皇フランシスコが8月15日に発表したことを受け、新教区の設立式ミサが10月9日、大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂(玉造教会)で行われた。
7府県内外から約1200人が参列した。主司式は初代大司教に任命された前田万葉大司教。酒井司教が引き続き補佐司教となる。高松教区は諏訪榮治郎司教の75歳定年にもとづく引退願いが9月、教皇によって受理されて空位となっていた。名古屋教区で100周年閉幕ミサを共に祝ったレオ・ポツカルディ大司教も9月に駐日教皇庁大使を退任し、代わってファブリス・リヴェ臨時代理大使が教皇の大勅書を掲げて見せた。
東京教区に補佐司教 12月16日に司教叙階式
教皇フランシスコは9月16日、ミラノ外国宣教会のアンドレア・レンボ神父を東京教区補佐司教に任命された。司教叙階式は12月16日(土)、東京カテドラルにて行う。レンボ神父は1974年5月23日、イタリア・ロンバルディア州生まれの49歳。2009年に来日して東京教区で司牧にたずさわり、現在はミラノ宣教会管区長。